

my room

廣岡真由



1.作品のコンセプト

子供のころに〇〇をしたかった…と思うことはよくあること。それを言うと今からでも遅くないよ、という人もいるが、そうではなく、まだ何にも成れたあの頃に経験して思い出にしたかったのだ。

私が服を作るとき、小さいときに着たかった服、または理想の女の子が着ている服を意識します。それが小さかった自分を救う行為になる気がするから

です。今回のテーマはmy room。憧れの夢の家に住んでいる女の子をイメージして製作しました。花柄の壁にレースのカーテン、キルティングの布団がかかったベッドで寝ているような女の子。

ただコンセプトとは別にこの服を誰かが見たり着たりして、かわいいと思ってくれたらとてもうれしいです。

2.デザインソース

女の子の思い出を元に製作しました。ここでの思い出は決して現実のものではなく、映画やアニメ、小説や絵本などを観て過去の私が思い描いていた夢です。小さいころに一緒にお城へ向かった木馬や部屋に入ってきた蝶を捕まえて作った標本、色んなものをコラージュしたスケッチブック、ワンピースを重ねて着たお気に入りのエプロン、おばあちゃんが作ってくれた大切な手作りのデディベア。現実のようで現実じゃない、けどどこかで必ずあった思い出たちをイメージし、どこか懐かしく感じるアイテムや雰囲気細部にちりばめました。

3.デザインの特徴

全体のぐちゃぐちゃ感を特に意識して作りました。特にたくさん使った色はピンクですが、ぱっと見同じ色味でも何種類ものピンクを使用しています。また、服としての機能面も考慮してビスチェやスカートは計算してきっちりと編み、反対にエプロンは手を動かしながら編み進め理想の雰囲気になるように製作しました。

IFD2023-BF-01

4.製作に使用した材料

赤ちゃんや子供服に最適な毛糸を使用し、やわらかい風味に仕上げました。ベビー向けの毛糸はパステルカラーのカラーバリエーションが豊富に備わっているのも特徴で、出したい雰囲気を作ることができたと思います。肌に直に触れるビスチェやスカートはアクリルとウールの混合糸を使用し、エプロンにはコットン糸を多く使用しました。また、エプロンには布を割いて編みつけたり、アクセントとしてファンシーヤーンを混ぜたりしてみました。

5.技法・技術

ビスチェとスカートはかぎ針で製作しました。グラニースクエアをカラフルに作ったり、糸を編み込みながら編地に柄を入れたりし、細編みでつなげ合わせました。パッチワークのような感じにしたかったのでわざとつなぎ合わせる時の糸を変え目立たせました。

エプロンは前身ごろの部分をかぎ針、スカート部分を家庭用手編み機を主に使用して製作しました。身頃のフリルの部分は土台のフリルを編んだ後に別色の糸で自由に編みつけて模様を作りました。何色とも言いがたい面白い編地になったと思います。スカートは編み機にひっかけて縦方向に糸を変えながら編み、最終的に糸を変えたところを細編みで際立たせることによって、パッチワークのような雰囲気にしました。



身頃部分やサイドのリボン、スカートの裾についているリボン柄の方眼編みなど、ところどころに少し茶色味が深い白が見られると思います。私が作りたかったのは新品ではない服。昔だれかが着ていたかもしれない服なので、すべてコーヒーや紅茶で染めました。いい感じに全体の雰囲気にマッチしてくれたと思います。